

南 風

田 富 南 小 校 長 通 信 No.3

令和 6(2024)年6月11日(火)

文責 雨宮 実

第 36 回田富南小大運動会

運動会といえばこれまでは秋の風物詩でした。

「赤とんぼ運動会の日となりぬ」(正岡子規^{まさおかしき}の俳句^{はいく})と、秋の季語にもなっています。8月末～9月に2学期が始まってからしばらくすると運動会の取り組みが始まり、当日が近くなると心^{おど}がだんだんと躍ってくるのが感じられたものです。

さて、本校では令和6年(2024年)から運動会を春季に行



うこととしました。気候変動にともない残暑が長引くようになり、9月末の実施では脱水症や熱中症等、児童の健康への影響が心配されるためです。

今年度、4月に年度が替わってからあまり間をおかずに準備や練習が始まり、5月25日に本番を迎えました。

小学校という新しいシステムの中で、日々の学習および

生活訓練等すべてが新しく始まり、小学生としての生活

を軌道^{きどう}に乗せつつあるなかで、さらに運動会という行事を経験^{ふたつき}するということについて、つい二月前までは幼稚園児・保育園児だった1年生にとってはとても不安があったのではないかと思います。保護者の皆様にも同じように感じられていた方は多かったのではないかと思います。しかし、練習の様子や本番での態度など1年生の順応力にはすばらしいものがありました。子供たちはたった2ヶ月でこのように成長するものなのだ、とあらためて感服したものでした。



2年生以上は、昨年の運動会から半年と少し過ぎたところですが、成長ぶりはいかがでしたでしょうか。2年生は1年生とチェッコリ玉入れに懸命に取り組み、3, 4 年生は一所懸命にソーラン節を踊り、5, 6年生はリーダーおよびサブリーダー学年としてそれぞれの競技や演技、たてわり競技において下級生の見本となるような競技や演技を見せてくれました。そこには児童のみなさんの自信やプライドがあったものと感じています。運動会に向けて取り組む中で培った自信・プライドをこれからの成長の糧にしていってほしいと思っています。



信やプライドがあったものと感じています。運動会に向けて取り組む中で培った自信・プライドをこれからの成長の糧にしていってほしいと思っています。

半日という短く限られた時間ではありましたが、児童のみなさんのステップアップ、成長の足跡を見ることができたと感じています。ご家庭におきましても、お子さんと運動会の様子についてお話をしていただけたいでしょうか。お話をするなかで、お子さんの成長した様子を感じ取ることができたのではないかと思います。

多くの保護者の皆様、地域の皆様にご覧いただきました。ありがとうございます。

多くの保護者の皆様、地域の皆様にご覧いただきました。ありがとうございます。

今後ともよろしくお願いいたします。



ほととぎす 鳴きつる方を 眺むれば ただ有明の月ぞ残れる

(百人一首 81番 後徳大寺左大臣《藤原実定》)

—今のことばにすると—

ホトトギスの鳴き声が聞こえてきた方向をながめてみたのだが、ホトトギスの姿は見え、ただ有明の月（夜が明けても空に残っている月）が西の空に浮かんでいるのが見えるだけだ。

明け方、ホトトギスの鳴き声がした方向を見ると、有明の月が西の空にかかっているのが見えた。さて、ホトトギスはどこへ行ってしまったのだろう、というしみじみと落ち着いた雰囲気のと歌です。6月24～28日あたりの午前4時過ぎぐらいに早起きすると、天気が良ければこの和歌の雰囲気にひたることができるかもしれません。なお、ホトトギスのオスは『キョッキョッ、キョッキョキョ』、メスは『ピピピピ』というふうに聞こえる鳴き声を発します。